

平成 31 年 3 月 19 日

平成 30 年度国立大学図書館協会海外派遣事業（短期）参加報告書

一橋大学学術・図書部学術情報課
尾城 友視

1. 派遣期間

平成 30 年 11 月 11 日（日）～ 11 月 17 日（土）

2. 訪問先／対応者（訪問順）

ユトレヒト大学図書館	Mr. Jeroen Bosman (Subject Librarian) Mr. Jeroen Sondervan (Publishing Consultant)
オランダ大学協会 (VSNU)	Ms. Wilma van Wezenbeek (Project Leader of OA, Director of TU Delft Library)
ティルブルフ大学図書館	Mr. Hylke Annema (Head of Department, Division Library and IT Services)
ティルブルフ大学	Dr. Koen Becking (President of the Executive Board)

3. 調査テーマ

OA 先進国オランダにおける大学図書館の研究支援体制に関する実態調査

4. 調査目的

オランダでは、政府の主導により、公的助成を受けた研究成果を全てオープンアクセス (OA) 化することを目指す取組みが進められている。その実現のため、国内の 14 の研究大学から成るオランダ大学協会 (VSNU) は、これまでのビッグ・ディールから、ジャーナル購読料と OA 出版料を組み合わせたオフセット契約への転換を図り、大手出版社との契約交渉を進めている。

しかしながら、この契約によって全ての研究成果を OA 化することはできない。個々の研究者に対し、適切な情報提供や支援が必要である。その実態を知るため、ユトレヒト大学図書館及びティルブルフ大学図書館、VSNU を訪問し、インタビュー調査を実施した。

5. 調査結果

① ユトレヒト大学図書館

ユトレヒト大学は 1636 年に設立され、オランダ国内でライデン大学、フローニンゲン大学に次ぐ歴史を誇る大学である。7 つの学部と大学病院から成り、学生数は約 31,000 人、

教職員数は約 6,500 人の大規模総合大学である。ユトレヒト大学では、大学及び図書館の戦略プランの中に OA を含むオープンサイエンスの推進が位置づけられており、図書館が様々な支援を進めている。このうち、具体的なサービスに焦点を絞り、学内向けの APC ファンド及びジャーナル出版支援について調査を行った。

2012 年に開始した OA ファンドでは、研究者に対して APC (Article Processing Charge: 論文掲載加工料) の助成を行っており、VSNU が進めるオフセット契約を補填する役割を持つ。助成を受けられるのは、ユトレヒト大学に所属する研究者が責任著者となる出版物で、VSNU の契約により APC が免除または控除されるものや、他の出版助成を受けているものは除かれる。助成額は実際に支払われた APC のうち最大 50%で、上限額は 1,000 ユーロである。論文だけではなく図書を OA 化する際に発生する BPC (Book Processing Charge) も助成対象となるが、そもそも図書の OA に関するオプションを持っている出版社が少ないこともあり、事例は多くないとのことであった。

2003 年に始まったジャーナル出版支援においては、2015 年に前身のサービスから現在の “Uopen Journals” に名称を変え、単にジャーナル出版のためのプラットフォームを提供するだけでなく、質の高い OA ジャーナルの育成・運営支援を行うことを目指す体制に切り替えた。その特徴は「インキュベーター・モデル」(保育器モデル) と呼ばれるもので、6 年間図書館が財政的な支援を行う間に、各ジャーナルは財政面も含め持続可能な運営体制を確立することを目指す。Uopen Journals チームはジャーナルの編集委員会に対し、誌面やウェブサイトのレイアウトといった技術的なことから、マーケティングや広報といった戦略に関わることまで、あらゆる過程において助言や情報提供を行う。現在支援を受けている 14 のジャーナルのうち、1 誌は APC モデル、13 誌はダイヤモンド OA*を採用しているとのことであった。こうした支援を可能とするために、Uopen Journals チームには、ウェブやマーケティングの専門知識を持つスタッフを置いている。

* ダイヤモンド OA: 著者及び読者のいずれも費用負担をしない OA モデル。Uopen Journals の事例では、ジャーナルの発行主体である学会や関係組織が負担するとのことであった。

② ティルブルフ大学

ティルブルフ大学は、1927 年に設立された人文・社会学系の大学である。5 つの学部を持ち、学生数は約 14,000 人、教職員数は約 2,000 人で、オランダ国内では中規模大学の位置づけである。ティルブルフ大学では、大学戦略における重点事項の一つにオープンサイエンスの推進が挙げられており、その実現のためのアクションプランが 2018 年に発表された。これは図書館員が起草したもので、中には OA 推進のための取組みも含まれている。そのうち、主にジャーナル出版及びプレプリントに関する取組みについて調査を行った。

ジャーナル出版のプロジェクトでは、ティルブルフ大学の研究者が運営する OA ジャーナルの創刊を目指し、学内の知的財産や技術関連法分野の研究者と連携し、具体的な検討を進めているとのことであった。そのねらいは、同分野における商業誌との競合や、研究者に対

して OA 化する選択肢を増やし、OA を広めることである。このプロジェクトの記録は、ハンドブックとして学内でノウハウを共有する予定であるとのことであった。

プレプリントに関しては、SSRN 等のプレプリントサーバで公開される論文を、ティルブルフ大学の研究成果として集約し、一つのインターフェースで提供することを考えているとのことであった。技術的には DOI により、大学が管理する研究業績や機関リポジトリのメタデータとの紐付けが検討されている。研究者の従来の変えなく、研究成果を「見える化」するための仕組みを作るという発想である。ティルブルフ大学は、人文・社会学分野に特化した大学ということもあり、研究者にとって OA に対する心理的な距離感は小さくないようであるが、それゆえに独自の取組みが見られる。調査時点ではまだ構想段階のプロジェクトがほとんどであったため、今後もその動向に注目したい。

③ オランダ大学協会 (VSNU)

VSNU は、出版社交渉をはじめとする活動により、国内の OA 推進を先導する役割を担っている。その 5 つの柱として、①出版社交渉、②国際関係の強化、③アーカイブ、④モニタリング、⑤代替出版プラットフォームの支援を掲げている。出版社交渉による購読モデルから出版モデルへの転換といったゴールド OA を前提とする方針とその成果が目を見守る一方で、機関リポジトリへのセルフアーカイブを推進するプロジェクトや、既存の学術雑誌の代替となる研究成果の公表手段を模索する動きも進んでいる。国際関係の観点では、出版社交渉の後ろ盾となる EU やオランダ政府との関係を強めるほか、研究業績の評価や、商業出版社に大きく依存している現在の学術情報流通の仕組みについて、国を越えて研究コミュニティーを交えた議論が必要と考えているとのことであった。また、こうした活動の成果を計るため、学術論文の OA 達成率を捕捉するための方法も定めている。

オランダでは、政府が発信源となって強力なゴールド路線の OA ポリシーが機能しており、その上で各大学において研究者一人ひとりへの支援を図書館が中心となって行っている。日本とは背景が異なるが、個々の研究者のニーズや反応に大きな違いはないものと思われる。日本における今後の OA の展開進展状況によっては、オランダの大学図書館における取組みは重要なモデルケースとなる。

また、ユトレヒト大学ならびにティルブルフ大学において、研究成果の公表 (publish) の段階においても、図書館が支援を行っている点が印象的であった。ヨーロッパを中心に OA がスタンダードになりつつある中で、最新の国際動向を捉え、個々の研究者や大学の戦略に還元することは、日本の大学図書館あるいは図書館員にとって新たな役割になりえないだろうか。今後の研究支援のあり方や、図書館に必要な人材について考える上で、オランダの大学図書館における取組みは、大いに参考になると考える。